
大学教育学会ニュースレター

No.103 2016.9.23

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局：〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX：(042) 707-8112

郵便振替口座：00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

e-mail:jacue.office@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

大学教育学会 2016 年度課題研究集会 統一テーマ 「学生はいかに学んでいるのか」

大学教育学会 2016 年度課題研究集会 実行委員長
小澤 弘明 (千葉大学)

この度、2016 年度の大学教育学会課題研究集会を、千葉大学で開催することになりました。ここに実行委員長としてご挨拶を申し上げます。

現在、日本の大学は、大学教育の質的転換が求められております。その中で、学生の学びを支援する観点から大学教育をとらえなおすとき、大学はどのようにあるべきでしょうか。多様な専門領域と教養教育を統合する大学教育において、学生の学び方や考え方を支援するとき、どのような共通の視点に基づいた議論ができるでしょうか。本年度の課題研究集会では、こうした広範な問題意識を踏まえつつ、「学生はいかに学んでいるのか」を統一テーマとして、企画委員会（沖清豪 委員長）とともにプログラムを編成しました。また、昨年度に引き続き、ポスター・セッションも開催いたします。

12 月 3 日の基調講演では、少人数教育・対話型授業を教育の特徴におき、アカデミックアドバイザーを組織的に導入している国際基督教大学 (ICU) のこれまでの教学改革を通じて学生たちがいかに学んでいるのか、どのように成長しているのかを、同大学学務副学長の森本あんり先生にお話いただきます。ICU の事例を通じて、学生の学びの変容を支える大学や教職員の在り方について学んでみたいと思います。さらに、森本先生には、「反知性主義」の議論も踏まえつつ、本学会の基礎をなす課題である大学における教養教育のあり方についても触れていただきます。

大会校企画シンポジウムとパネルディスカッションでは、認知科学、教授方法・学習方法、学修支援という観点から、大学での学び方・教え方の転換がどのように可能なのかについて議論してもらいます。背景となる理論や参考となる実践例を学ぶことを通じて、知識伝達をこえた大学教育の在り方、学生の学修支援の在り方について共通の理解を深めたいと思います。

12 月 4 日には、大学教育学会が課題研究として取り組んでいる研究の成果報告が 2 件のシンポジウムとして開催されます。午前中は、「アクティブラーニングの効果検証」として、教育方法として重視され、注目の集まっているアクティブラーニングが学生の学びにどのような効果をもたらすのか議論されます。午後は、「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」として、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法により大学に求められている障害をもつ学生への合理的配慮について、その在り方が議論されます。また、今回の課題研究集会では、2 日目に、午後の課題研究シンポジウムと並行して、これからの時代の大学教育に求められる新しい理数系科目としての STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育の在り方を考えるために大学教育学会が立ち上げたプロジェクトグループが主催する STEM 教育シンポジウムが開催されます。

これからの大学、大学教育の在り方を考えるための重要なテーマを議論する課題研究集会となっています。多くの方のご参加をお待ちしています。

大学教育学会 2016 年度課題研究集会

実施要項

統一テーマ：「学生はいかに学んでいるのか」

主催：一般社団法人大学教育学会

共催：千葉大学

期日：2016年12月3日（土）・4日（日）

会場：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館（千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33）

【スケジュール】

第1日：

11:00	12:00	12:50	13:00	13:30	14:30	15:20	15:30	18:00	18:30	20:00
受付	ポスター セッション・ コアタイムⅠ	移動	開会 挨拶	基調 講演	ポスター セッション・ コアタイムⅡ	移動	開催校企画 シンポジウム	移動	情報 交換会	

情報交換会場：千葉大学 大学会館（生協食堂）

第2日：

9:00	9:30	12:00	13:00	15:30	16:00
受付	課題研究シンポジウムⅠ	昼食	課題研究シンポジウムⅡ STEM教育シンポジウム	閉会 挨拶	

関連行事

12月3日（土） 9:30～11:30 理事会 [けやき会館：2階 会議室2]

11:00 受付開始 [1階ロビー]

12:00~12:50 ポスター・セッション コアタイムⅠ [3階 レセプションホール]

13:00~13:30 開会行事 [1階 大ホール]

総合司会：小澤 弘明（千葉大学） 実行委員長

開催大学挨拶 徳久 剛史（千葉大学 学長）

学会会長挨拶 小笠原 正明（北海道大学名誉教授）

13:30~14:30 【基調講演】「大学生の学びとこれからの教養教育」[1階 大ホール]

講演講師 森本 あんり（国際基督教大学・学務副学長）

国際基督教大学学務副学長の森本あんり先生にご登壇いただきます。森本先生には、ご自身の教育実践はもとより、少人数教育・対話型授業を重視し、アカデミックアドバイザーを導入している国際基督教大学(ICU)の大学改革についてお話いただきます。ICUの教育には、今、その推進が重要課題とされているアクティブラーニングが要所に取り入れられています。加えて、昨年出版され、社会的にも注目の高いご著書の『反知性主義』を踏まえて、これからの大学における教養教育についてのお考えもお聞かせいただきます。

講師経歴：1956年生まれ。国際基督教大学，東京神学大学，プリンストン神学大学を修了（Ph.D.）。国際基督教大学人文科学科教授（哲学・宗教学）。2012年より学務副学長。プリンストン神学大学とバークレー連合神学大学で客員教授。著書に、『反知性主義』（新潮社），『アメリカ的理念の身体』（創文社），『アメリカ・キリスト教史』（新教出版社），Jonathan Edwards and the Catholic Vision of Salvation(Penn State University Press)など。

14:40~15:20 ポスター・セッション コアタイムⅡ [3階 レセプションホール]

15:30~18:00 【開催校企画シンポジウム】 [1階 大ホール]

テーマ：「学び方・考え方の転換 - 知識伝達をこえた大学教育と支援」

大学教育の質的転換が強く求められている中で、それぞれの大学で様々な取り組みがなされています。質的転換のための最善の方法は、それぞれの大学の個性によって決まるものであり、全ての大学に適用できる何か一つの万能薬があるわけではありません。しかし、先行する大学でなされている様々な取り組みを横断的に見ると、知識伝達の効率性を追求するのではなく、学び方、考え方の変革を追求するという一つの共通性を見出すことができるのではないのでしょうか。

本シンポジウムでは、基調講演も踏まえつつ、教授方法や学習方法の変化、新たな学修支援体制の構築、あるいは認知科学の視点から見た知性の姿や思考のプロセスといった、理論的視点と実践的視点の双方から、学び方、考え方の転換がどのように可能なのかを議論します。ディスカッションにおいては基調講演者である森本あんり先生にもコメンテータとして加わっていただき、参加者の皆さんと活発な意見交換を行って、知識伝達を超えた大学教育のあり方、学生の学修支援のあり方について共通の理解を深めてみたいと思います。

シンポジスト：

- 1 鈴木 宏昭（青山学院大学） 認知科学の観点から
- 2 中井 俊樹（愛媛大学） アクティブラーニングの観点から
- 3 竹内 比呂也（千葉大学） 学修支援の観点から

コメンテータ：森本 あんり（国際基督教大学）

司会者：沖 清豪（早稲田大学）

18:30~20:00 情報交換会 大学会館（生協食堂）

○ポスター・セッション [3階 レセプションホール]

12:00~12:50 コアタイム I

14:40~15:20 コアタイム II

【ポスター・セッション発表者一覧】

1. 「学位授与の方針」達成状況自己評価システム「In Folio (アイフォリオ)」の開発
○江本 理恵 (岩手大学)
2. 障害のある学生支援を行う支援室と連携した、障害特に発達障害のある学生への授業支援
○田実 潔 (北星学園大学)
佐藤 祐基 (北星学園大学・非会員)
3. 理工系教育におけるアクティブラーニング導入に向けた FD 研修の成果と課題
○中村 文子 (ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社)
山本 哲也 (東京都立産業技術高等専門学校・非会員), 榊原 暢久 (芝浦工業大学)
ホートン広瀬 恵美子 (芝浦工業大学), 奥田 宏志 (芝浦工業大学)
4. 非プログラマ志願者を対象とするコンピュータプログラミング教育の実践とその学習効果
○佐藤 尊範 (東海学院大学)
5. 課題協学科目：九州大学基幹教育における全1年生必修の文理混合 PBL 型授業
九州大学基幹教育院 (○古屋 謙治
田村 茂彦, 早川 敏之, 安田 章人, 山形 伸二, 山田 琢磨, 山田 祐樹)
6. 大学における教育情報の活用および公開の現状と課題—全国大学調査に基づく検討から—
○岡田 有司 (東北大学)
鳥居 朋子 (立命館大学), 高橋 哲也 (大阪府立大学)
7. 理工系教育における自校教育「芝浦工業大学通論」の成果と課題
○奥田 宏志 (芝浦工業大学)
榊原 暢久 (芝浦工業大学), 徳永 幸生 (元芝浦工業大学・非会員)
8. 京都三大学教養教育研究・推進機構における教養教育カリキュラムの具体像
○児玉 英明 (京都三大学教養教育研究・推進機構)
○林 哲介 (京都三大学教養教育研究・推進機構)
9. 教学 IR の能動的役割 —Action を活性化するオーダーメイド型 IR の利点と課題—
○紺田 広明 (関西大学)
森 朋子 (関西大学), 竹中 喜一 (大阪大学大学院), 土井 健嗣 (関西大学・非会員)
10. 「ジェンダー」という視点からの授業の考察
—授業においてジェンダーが学びにどの様に作用しているのか—
○松村 悠実子 (玉川大学)

11. 大学図書館内協同学習スペースにおける3, 4年生の授業外学習の実態及び学習支援のニーズ調査

○嶋田 みのり (東北学院大学)
遠海 友紀 (東北学院大学・非会員), 帖佐 和加子 (東北学院大学大学院・非会員)
稲垣 忠 (東北学院大学・非会員)

12. 教員に必要なコミュニケーション能力に関する考察 ～学生による内省の分析から～

○日野 純子 (帝京大学)

13. 初年次教育を学生はどのように捉えるか：プログラム受講直後のインタビュー結果の検討から

○久保田 祐歌 (徳島大学)
新原 将義 (徳島大学・非会員), ○吉田 博 (徳島大学)

14. DP見直しに向けたFDセミナーの評価

○上田 勇仁 (大阪大学大学院)
吉田 俊弘 (大正大学・非会員), 佐藤 浩章 (大阪大学)

15. UDLに基づいた学修環境デザインによるアクティブラーニングの試み

○藤井 厚紀 (福岡工業大学短期大学部)
石橋 慶一 (福岡工業大学短期大学部・非会員)
上村 英男 (福岡工業大学短期大学部・非会員)

16. 奨学金データの Institutional Research

-受給奨学金・出身地域と教育成果の関係性に関する検討-

○姉川 恭子 (早稲田大学)
岡崎 成光 (早稲田大学・非会員), 村山 尚史 (早稲田大学・非会員)
國分 勝 (早稲田大学・非会員), 中山 勝博 (早稲田大学・非会員)

17. 化学の授業を通して学生は何を学んだか

○安岡 高志 (立命館大学)

18. 「視点」の映像記録からみえる「フィールドで人はいかに学んでいるか」

○土屋 衛治郎 (立正大学)

19. 経験を学びに変える ～「気づきを促す」教職員の能力開発手法に着目して～

○岸岡 洋介 (京都外国語大学), ○山内 一祥 (佐賀大学), ○村田 晋也 (愛媛大学)
鈴木 理絵 (愛媛大学), 秦 敬治 (追手門学院大学)

20. 短大生調査を通じた内部質保証の推進と短大教育の可視化

○堺 完 (日本私立学校振興・共済事業団), ○山崎 慎一 (桜美林大学)
宮里 翔大 (桜美林大学大学院・非会員), 黄 海玉 (短期大学基準協会・非会員)

※会員の所属の記載は、学会に登録されている所属先を記載しています。

9:00 受付開始 [1階ロビー]

9:30~12:00

【課題研究シンポジウムⅠ】 [1階 大ホール]

テーマ:「アクティブラーニングの効果検証」

本シンポジウムは昨年に続けて2年目の、課題研究「アクティブラーニングの効果検証」に関する進捗報告である。高等教育のみならず、初等・中等教育まで下りて全学校教育段階でアクティブラーニング(AL)が導入・推進されようとしているなか、アクティブラーニングの効果検証は喫緊の課題である。しかし、問題は山積している。組織的実践の展開を横にどければ、残る難問は効果指標である。これまでの研究は、成績の平均、記憶定着率、学習意欲、深い学習へのアプローチなどの得点上昇が高まることで、ALの効果を示してきた。しかし、それらはALでなくても上昇させることが可能であり、厳密にはALの効果を示すものにはならない。本報告ではこの観点にしたがったAL外化尺度を提案し、その理論と尺度開発について中間成果を報告する(溝上会員)。ほか、以上の検証指標を用いた約50の大学授業でのプレ・ポストの変化を本田会員より、50の授業のなかからいくつかを選び、その授業プロセスを質的に参与観察、量的データとのつきあわせ、授業者へのインタビュー等もおこない総合的に検討したAL型授業の分析結果を森会員より、理科系の授業における主体率にフォーカスし、フリーライダーの問題に取り組む山田会員より報告をおこなう。

企画者: 溝上 慎一 (京都大学)

司会者: 溝上 慎一 (京都大学)

シンポジスト:

溝上 慎一 (京都大学) 「アクティブラーニング指標としてのアクティブラーニング外化尺度の理論と尺度開発」

本田 周二 (大妻女子大学) 「これまでのプレ・ポストの調査結果から見たアクティブラーニングの効果」

森 朋子 (関西大学) 「質的データから見るアクティブラーニングの効果」

山田 邦雅 (北海道大学) 「グループワークにおける主体性と学習効果」

12:00~13:00 昼食休憩

※事前にお申込みされた方には、会員控室で引換券により昼食をお渡しします。

13:00~15:30

【課題研究シンポジウムⅡ】 [3階 レセプションホール]

テーマ:「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」

『文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針』(2015年11月26日)に、「学校は、合理的配慮の提供者であることに加え、障害のある幼児、児童及び生徒が社会に参加していくに当たり、適切な『意思の表明』ができるよう、必要な支援を自分で選択し、他者に伝える力を身に付けるための教育を担う」「教育機関としての役割の重要性とその責任を十分認識」すべき旨、明記された。こうして、本年4月の障害者差別解消法の施行により、国公私立の別なく、全ての段階の教育機関は新たな教育役割を課せられたことになる。

さらに、本年8月1日施行の改正発達障害者支援法では、教育条項も見直され、「発達障害児が発達障害児でない児童と共に教育を受けられるよう」「個別の教育支援計画の作成」などが新たに盛り込まれた。大学は、こうした合理的配慮のもと「支援を選択し他者に伝える力」を身に付けた発達障害学生や、在学中に自らの特性に気づいた未診断の学生たちに、「個々の発達障害者の特性に応じ」(改正発達障害者支援法)、合理的配慮を行わねばならない。また、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整え」(大学設置基準四十二条の二)、社会に発達障害学生を送

り出す教育機関としての役割を重くうけとめ、教育内容・方法の改善に取り組まねばならない。

適切なアセスメントに基づく必要な配慮の提供を行う大学づくりには、人的・経済的にコストがかかる。専門性の高い職員・カウンセラーを必要とする。学内・外の連携・協働が必須であり、いわゆる大学コミュニティ全般の新たな風土づくりが求められる、決して容易ではないチャレンジとなる。

こうした課題をめぐる研究の最終シンポジウムである。研究成果の一端と今後の課題を提示する。

企画者：青野 透（徳島文理大学）、枝廣 和憲（立命館大学大学院）、大島 啓利（広島修道大学）

小川 勤（山口大学）、片岡 美華（鹿児島大学）、橋場 論（福岡大学）

望月 由起（昭和女子大学）、山中 淑江（立教大学）、吉武 清實（東北大学）

司会者：望月 由起（昭和女子大学）、青野 透（徳島文理大学）

シンポジスト：

青野 透（徳島文理大学）

「問題の本質—国立大学職員対応要領における発達障害学生配慮例分析から—」（仮題）

枝廣 和憲（立命館大学大学院）

「国立大学の発達障害学生支援（1）—岡山大学における修学支援の課題を中心に—」（仮題）

小川 勤（山口大学）

「国立大学の発達障害学生支援（2）—山口大学における移行支援の課題を中心に—」（仮題）

渡部 みさ（首都大学東京、非会員）

「公立大学の発達障害学生支援—首都大学東京における現状と課題を中心に—」（仮題）

山中 淑江（立教大学）

「私立大学の発達障害学生支援—立教大学における現状と課題を中心に—」（仮題）

指定討論者：吉武 清實（東北大学）、沖 清豪（早稲田大学）

13:00～15:30

【STEM教育シンポジウム】 [1階 大ホール]

テーマ：「現代のリベラルアーツとしての理工系科目（STEM）の開発と教育実践のために」

世界的に新しいSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育が推進されており、日本の高等教育でもその導入が期待されている。各大学で導入するためには、先行する具体的な例を参照する機会があることが望まれる。また、STEM教育の目的は経済競争の基盤強化のみならず、科学技術のリスクをコントロールするために、市民が科学技術への理解と判断力を持つことにある。そのためには人権や平等など人間的価値の実現のための教育、すなわちリベラル教育とセットで構想される必要がある。本シンポジウムでは、各大学への導入を早めるための「新しいSTEM教育の具体的な導入例としてのティーチング・ティップス構築」の紹介と「文理融合の新しいSTEMプログラムの開発」に関する討論を企画している。

企画者：細川 敏幸（北海道大学）、鈴木 久男（北海道大学）、山田 礼子（同志社大学）

羽田 貴史（東北大学）、塚原 修一（関西国際大学）、森 利枝（大学改革支援・学位授与機構）

高橋 哲也（大阪府立大学）、林 哲介（京都三大学教養教育研究・推進機構）

司会者：細川 敏幸（北海道大学）

サブテーマ1：現代人に必須の数学リテラシー科目のティーチング・ティップス

講演者：川添 充（大阪府立大学）

サブテーマ2：文理融合の新しいSTEMプログラムの開発

講演者：羽田 貴史（東北大学）、山田 礼子（同志社大学）

15:30～16:00 閉会行事 [1階 大ホール]

学会会長挨拶 小笠原 正明（北海道大学名誉教授）

次年度大会開催校・課題研究集会開催校紹介

閉会挨拶 2016年度課題研究集会実行委員長 小澤 弘明（千葉大学）

＜課題研究集会参加申込み要領＞

課題研究集会に参加される方は、以下の要領で 1)参加申込みの上、2)参加費等の払込みを行ってください。なお、準備の都合上、事前手続きにご協力ください。事前手続きにより、参加費・情報交換会費を割引させていただきます（学生会員以外）。

＜事前手続き＞ **11月11日(金)までにオンラインで参加お申込み後、参加費等の払込みをお願いします**
(期日厳守)。期日を過ぎて払い込まれた場合、受付で当日申込との差額をいただきます。

1) 参加申込み方法

オンラインで参加申込みをお願いいたします。申込は10月1日（予定）より、本学会 Web サイトのメニューから「大会・集会」→「大会参加申込」で入力することが可能となります。画面の指示にしたがってお申込みください。[大学教育学会 URL] <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>
※オンライン申込みの受付後には「申込受付」メールを、申込み時に登録いただいたメールアドレス宛に送信します。「申込受付」を受領されましたら、参加費等の払込みをお願いいたします。

2) 参加費等払込み方法

参加費等は、同封の払込取扱票を用いた通常扱いの郵便振替にてお支払いをお願いします。電信扱での振込はご遠慮ください。振込手数料はご本人の負担となります。学会の年会費の郵便払込取扱票とは別になっていますので、ご注意ください。領収書は、当日受付でお渡しします。

なお、参加者1名につき、払込票1枚を基本ルールとしますが、機関等で複数の参加者の申し込み及び参加費をまとめて一括で振り込まれる場合は、事前に実行委員会までご連絡ください。

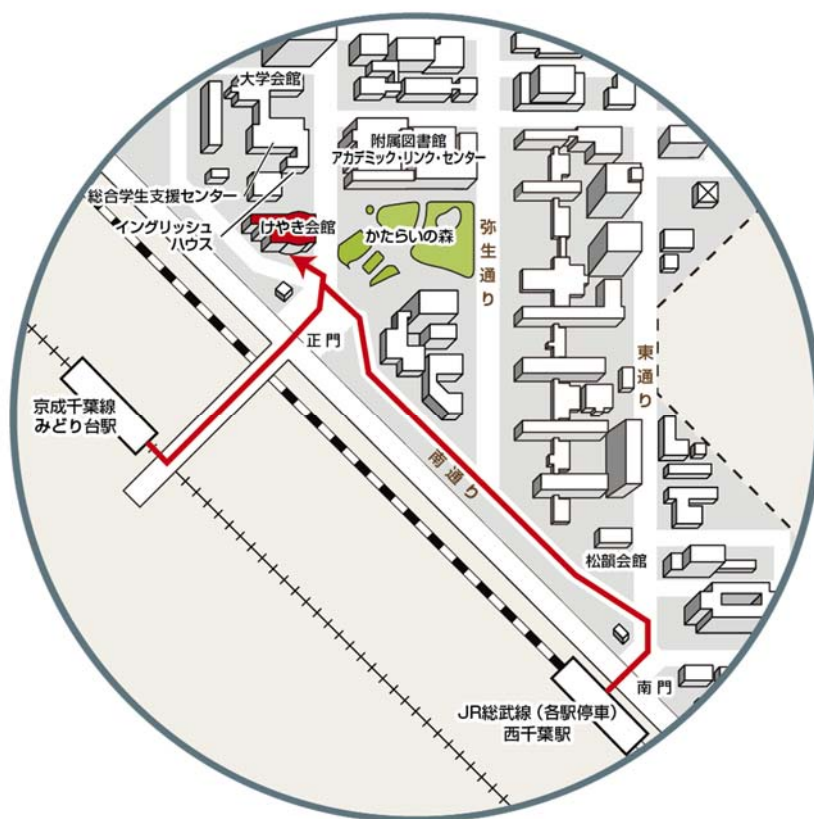
課題研究集会 郵便振替口座		
加入者名: 大学教育学会 2016 年度課題研究集会実行委員会		
【口座番号】 00100-6-696623		

万が一、誤って締め切り後にご入金の場合、課題研究集会当日までに入金が確認できないことがありますので、ご入金時の郵便振替払込請求書兼受領証を必ずご持参ください。なお、締め切り後のご入金の場合は当日受付扱いとなりますので、差額を受付時にお支払いいただくこととなります。

【参加費等】(事前払込期日は11月11日(金)です。)

申込み区分	会員・一般（非会員）		学生（学生会員・非会員） (特別割引)
	事前払込み	当日受付	
参加費（要旨集含む）	5,000円	6,000円	1,000円
情報交換会費	5,000円	6,000円	2,000円
『要旨集』のみ	1部 1,000円（送料込み）		
昼食（4日昼）	1,000円		1,000円（事前のみ）

- ・一般（非会員）の方も参加できます。事前申込を利用される場合は、「申込受付」のご連絡時に参加費等をお知らせしますので、郵便局に備え付けの「払込取扱票」により、上記の手続きをしてください。
- ・学生や院生の方々が参加しやすいよう、参加費および情報交換会費の特別割引をしています。会員の皆様におかれましては、非会員の学部学生や大学院生も含め、広く課題研究集会への参加を促していただきますようお願いいたします。また、これを機会に本学会加入の呼びかけもお願いいたします。
- ・会員の方の学生割引は、学会登録の会員資格の区分に基づきます。学生区分で申込みされる方も、できる限り、参加費の事前支払い手続きを行ってください。
- ・障がいをお持ちの方でサポート等を必要とされる方は、申し込み時にお知らせください。
- ・払込みされた参加費等は、理由を問わず返却いたしません。あらかじめご了承ください。
- ・参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、『要旨集』をお送りします。



千葉大学西千葉キャンパス構内図(けやき会館の場所)

【2016年度課題研究集会 実行委員会】

千葉大学 国際教養学部内

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

お問合せ用 E-Mail: jacue_meeting2016@ml.chiba-u.jp

＝事務局から＝

● 2016年度課題研究集会について

2016年度課題研究集会は、12月3日(土)・4日(日) 千葉大学西千葉キャンパスにて開催予定です。本文内の参加申込み要領に従い、お申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

● 会費納入のお願い

今年度(2016年度)の会費が未納の会員は、速やかにご入金ください。
領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

ご入金は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

<「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。また、2017年第39回大会時の発表申込み(2017年2月頃を予定)は、2016年度分までの会費が納入済みであることが条件となりますのでご注意ください。

※課題研究集会時(12月3日(土)12時～16時、4日(日)9時～13時)は、会場に学会事務局の受付を設置し、未納分の会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の販売等を行いますのでご利用ください。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い【アーカイブズ委員会】

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録(1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004年)

課題研究集会要旨集(1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003,
2004,2005,2008年)

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

● 大学教育学会第39回(2017年度)大会について

2017年度第39回大会は、2017年6月10日(土)・11日(日)に広島大学総合科学部にて開催予定です。スケジュール、ラウンドテーブルや自由研究のお申込みについては次号(NL104号)にてお知らせの予定です

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身でご変更のほどお願い申し上げます。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、上記の大学教育学会 学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。

しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。

● 2016年度(第12回)大学教育学会奨励賞募集について【奨励賞選考委員会】

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。受賞対象者は本学会の個人会員です。2016年度(第12回)の受賞対象は過去4年間の学会誌(第35巻第1号から第38巻第2号まで)に掲載された論文です。応募は自薦・他薦を問いません。

- ① 提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) / <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)
- ② 募集締切 2017年1月13日(金) 必着
- ③ 送付先 一般社団法人大学教育学会事務局
〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

なお奨励賞についての詳細は、「大学教育学会表彰規程」(本学会ウェブサイトに掲載)をご確認ください。



【学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail: jacue.office@gmail.com
URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目24-1 第2ユニオンビル4F
TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852
E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp